

学校行事

儀式的行事

指定校番号	28063	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	梶原 弘志	生徒指導主事	徳重 雄大
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『二分の一成人式』

取組のねらい『キーワード 自立と自律』

- 厳かな機会を通して集団の場における規律・気品ある態度を育てる。
- 10年間の自分の成長の跡を振り返り、自分の成長を確かめ、自己存在感や自己有用感を高めさせる。
- 二分の一成人式の計画や実行を通して、児童の自主的・実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 見通しを持った取組』

【目標の共有化】

4月

- 前年度の3学期に二分の一成人式が行われることを児童に伝え、二分の一成人式に向けて取組を進めていくことを示した。児童は3年生の段階で二分の一成人式に参加することで、式のイメージをもつことができていた。
- 二分の一成人式が行われる意義について話すことで、目標を共有化した。また、意欲の向上を図った。

【他行事との関連】

5月

- 運動会の入場行進や開閉会式の姿勢も、二分の一成人式との関連を図ることで、児童もより意識を高めて練習に取り組むことができた。また、振り返りをしっかり行い、次の取組に繋いだ。

9・10・11月

- 音楽発表会に向けての取組を二分の一成人式との関連を図った。児童会のテーマをもとに練習や本番に挑む態度や姿勢をイメージし、意欲を向上させた。

【主体的な準備・活動】

- 児童が中心となって、二分の一成人式・第二部の計画、準備を主体的に進めさせた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 計画・準備の充実』

【課題】

- 二分の一成人式のねらいや、各活動の意図を保護者に十分に伝えることができていなかった。
 - ・保護者の方々に活動の一環としてお願いすることが多くあったが、学校側のねらい等を十分に伝えることができていなかったため、保護者の負担感が大きかった。
- 小学校生活6年間を見通した取組に位置づけることができなかった。
 - ・二分の一成人式をもとにした一つのサイクルにおいては目標を達成することができたが、そこで得た力を他の行事で生かしたり、日常生活の中で生かしたりするための計画が不十分であった。

【創意工夫】

- 児童と教師の目標の共有化を図った。
- 二分の一成人式（第二部）の計画、準備を児童主体で行わせた。

取組の成果（効果）『キーワード 児童の主体性が自己存在感・有用感を高める』

- 運動会や音楽発表会などの行事，始業式などの儀式的行事において規律正しい態度で参加する力が身についた。（児童のふり返りより）
- 活動の計画段階から児童が主体的に取組み，各グループのリーダーは全体を見通し，指示を出すことができた。さらにリーダーを中心に全体がまとまり，それぞれが協力していく雰囲気は全体的につくられていった。
- 児童の自己存在感，自己有用感を高めることができた。
 - ・ASSESS（アセス 学校環境適応感尺度）による判定で，学校生活や友達とのかかわりについて，肯定的評価の児童の割合が高まった。
 - 4年生 6月・・・85.5%
 - 11月・・・87.8%（前回比2.3%増）

今後の展開『キーワード 広島版「学びの変革アクション・プラン」との関連』

- 特別活動の計画（学年間の系統性や関連）を見直していく。また，見直す際には，平成30年度から全県展開される広島県版「学びの変革アクション・プラン」をもとに工夫改善していく。

他校へのアドバイス『キーワード 学校と家庭が一体となって』

- 二分の一成人式の計画・実施に当たっては，家庭の協力が必須である。しかし，学校と家庭との認識のずれが生じると保護者は取組の負担感が大きくなったり，式実施に対する価値が下がったりする可能性がある。よって，計画段階から保護者との密な連携や丁寧な説明が大切であると考えます。

校番	57	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立熊野高等学校	校長	山田 哲也	生徒指導主事	沖田 孝之
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『平成28年度 1年生スターティングウィーク』

取組のねらい『育てたい生徒像を目指して』

新入生が入学して3日後からの一週間でスターティングウィークを実施した。その目的は、①高校生としての学習方法を習得し、自学自習の学習スタイルを確立する ②集団としての規律を遵守し、節度をもって学校生活を送る規範意識を高める ③積極的に一週間のメニューに参加し、やり遂げることで、熊野高校の一員としての帰属意識を高める の3点であった。この実現を目指すことが、本校の育てたい三つの生徒像（ルールとマナーを遵守し、相手の立場に立って自ら行動することができる生徒。学校行事に積極的に取り組み、メリハリのある学校生活を送ることができる生徒。進路目標を明確に持ち、その実現のため粘り強く努力することができる生徒。）の育成につながる。

取組の具体的内容『生徒に自信を持たせるために』

平成28年4月8日～15日の一週間を、1年生のスターティングウィークとした。初日はオリエンテーション（マナトレなどの学習に関すること、シラバスや部活動の紹介など）や学年集会・校歌指導・集団行動を中心に行った。2日目は基礎力診断テストとLHR（役員決定・写真撮影・校内見学等）を中心に行った。3日目から最終日まで英語・数学・国語のマナトレと自学自習を中心に行い、そのなかで生徒全員の担任面接を設定して、担任との人間関係の構築と相互理解に努めた。また制服の着こなし方を学ぶマナー講習会や、家庭学習の大切さ・話を聞くことの大切さを学ぶ劇の鑑賞を取り入れた。以上の内容を実践していくことを通して、初めての不安な高校生活に対して、自信を持って何事にも積極的に取り組もうとする気持ちを持たせることを目指した。

取組の課題・創意工夫『生徒指導の三機能を生かして』

本校のスターティングウィークは2年目になる。本年度新たに取り入れたものに、担任による生徒全員の面接がある。面接を通して担任と生徒の人間関係の構築ができ、その後の生徒指導もやりやすくなった。また相互理解が進み、早い段階で信頼関係ができた。また自学自習を全員で行うことで、自分自身にやればできるという自信が持てるようになり、集団のなかでの自己存在感を与え、共感的人間関係の育成も図ることができた。また観劇も初めて行った。「家庭学習の大切さ」と「聞くことは大事な力」というテーマを持った劇を鑑賞して、自分自身の将来を考えさせながら自己決定の場を与え、自分で決めて実行する能力の育成を図った。

取組の成果（効果）『黄金の学習サイクル』

マナトレを行うことで学び直しができ、学習理解が深まった。スターティングウィーク中の学習活動は、実力アップの合理的な方法として、**予習** → **授業** → **質問** → **復習** → **定着・発展**の黄金の学習サイクルの確立を目指した。これにより自分の学習スタイルを見直して挑戦する姿勢を育むことができた。また学習の目標として、①高校における学習の進め方を習得する ②自学自習の学習スタイルを身につける ③勉強すれば問題は解けるようになることを理解する という3点を掲げ、基礎力診断テストで入学時の実力を確かめ、マナトレを活用して高校での学習の基礎となる内容の総復習を行った。これにより学習に対する自信を持つことができ、高校生活へスムーズにスタートができることとなった。学習の定着でいえば、定期考査前一週間の学習時間調査の数値を見ると、昨年度1学期の中間・期末考査前一週間の学習時間の一学年平均が151.3時間であったのに対し、本年度は152.4時間と僅かだが増加している。

今後の展開『更なる目標へ』

学習に向かう姿勢はきちんとできるようになった。また学習をあきらめないという姿勢も見られ、定期考査で伏せてしまう生徒が少なくなった。自己存在感が持てるようになって、前向きな気持ちが高まってきた結果であると考え。学習理解の点では、補習などを行って基礎学習の定着を図る取組を続けたい。規範意識を持たせる点では、1年生に問題行動が2学期末まで1件しか起こらなかったこと、遅刻指導や服装指導の数も昨年度より減少していること等、色々な面で前進が見られた。基礎基本の定着と規範意識の醸造を更に目指したい。担任による面接は大変効果的であったが、授業とともに面接も行うという担任の負担が大きかった。来年度は面接の時間を増やし、担任の授業を減らすなどの手立てを行うなど、担任と生徒との人間関係を更に築いていけるような工夫を講じたい。

他校へのアドバイス『達成感』

3年前まで実施していた江田島宿泊研修を取りやめて、2年前からスターティングウィークを実施している。1週間かけてじっくりと学校独自の学習メニューを考えて、まず高校生活に慣れさせていくこと、高校の学習方法を学ぶこと、集団としての規律の大切さを学ぶことを理解させることで、熊野高校の一員となったという達成感を持たせていくことが図られ、それが生徒のやればできるという自信にも繋がった。スターティングウィークは新入生にとって意義のある一週間であると考えている。

[スターティングウィークの様子]



ルールブックの内容を確認しながら学習する



オリエンテーションで意欲的にメモを取る



部活動紹介での先輩の姿を熱心に見学する



校歌指導では全員で輪になって歌う



マナー講習会の話をもっと真剣に聞き入る



マナトレに真剣に取り組む